せんだい
sendai-city chronicles communication paper.
市史通信
第3号
仙台市博物館市史編さん室

3基の板碑と泉ケ岳

せんだい今昔 文書の保存のしかた

仙台市史編さん事業の過程では、多くの貴重な資料が収集されています。自治体史を刊行している他の自治体では、事業が終了した時点で公文書館を設立し、収集した資料を公開しているところもあります。藤沢市文書館（神奈川県）と神奈川県立公文書館の例を見てみましょう。

藤沢市文書館は公文書館としては歴史が古く、昭和49年に設立されました。藤沢市では、各課で作成された行政文書（永年保存及び3年保存以上の有期限保存文書）は作成より2年経過すると文書館保存庫に引き継がれます。保存年限が満了した有期限文書については、文書館が資料価値を判断し、選別保存します。

神奈川県では、作成から5年経過した文書は公文書館に移管されます。文書の存廃については公文書館が権限を持っていて、規程に従い選別されます。

これらの自治体では、公文書が必ず文書館を経由してから処理されるという体制が確立しています。資料に歴史的な価値があるかどうかということが、専門のスタッフによって判断できることになります。また、資料が捨てられてしまうという心配もありません。

一方、仙台市では、重要な文書についてはマイクロ化して公開に備えていますが、まだこのような体制にはなっていません。

現状では、各課の文書や資料に関しては、そのつど、市史編さん室の職員が収集しています。「仙台市史」をつくっていく上で、公文書が実は貴重な資料になり得るのです。

公文書保存の体制と保存庫の設置は、長い年月をかけて確立されることでしょう。それまでは、収集した貴重な資料を大切に守りたいと思います。

神奈川県立公文書館の保存庫

写真帖
―撮影に行こう―

『資料編』のうち、『伊達政宗文書1～3』（1は既刊）は、仙台の創設者・伊達政宗が書き送った手紙や保証・命令を行った文書などを収録するものです。政宗という人はたいへん筆まめだったこともあり、その文書は北は北海道から南は鹿児島まで全国各地に残されています。そのありかを捜し出して、調査と撮影に赴くのです。

撮影と調査には、若葉マークのカメラマンも奮闘します。

撮影に必要な機材は一眼レフカメラのほか三脚・ライト・ライトスタンド・ライトクリップ・露出計・ストロボなど。また、撮影のときには文書をカメラレンズの面に平行に据えなければなりません。それで、ちょっと特殊な道具として、ガラスの文鎮やライトの光が反射しないガラス板、文書を水平に置くためのアクリル板なども持っていきます。

遠くへ調査にでかけるときは、できるだけ身軽になるように考えて機材を持っていきます。それでも、予備の機材は重要です。それを持っていないときに限って機材が壊れたりするのです。

埼玉県の行田市郷土博物館でのこと。さあ撮影開始という段になって、ライトクリップのソケットがクリップからはずれて直せなくなりました。このときはひもで固定して何とか撮影できましたので、相手先に御迷惑をおかけせずにすみました。また、調査先ではさまざまな状況が生まれます。川越市の喜多院は川越大師・五百羅漢などで有名なお寺です。ここでは拝観受付のすぐ横で、掛け軸にした文書を撮影しました。拝観者の一団が通ると掛け軸が微妙に振動するので、足音に耳をそばだてながら、シャッターを切ったのでした。

調査先では撮影に集中してしまい、その場では気づかなかったことを、できあがった写真を見ながら「ああ、こうだったんだ」と発見するありさまです。

もうそろそろ若葉マークも卒業。そして、また今日も資料の調査にでかけていきます。

『市史せんだい』Vol.10のお知らせ

「地元学」―― この名前からどんなことを想像しますか？

「学」がつくから学問だろう、学問だから難しい……。

地元学は難しいものではありません。必要なのは知識より好奇心、本にかじりつくより、外を歩いて人の話を聞くのが大好きな人にピッタリです。

自分の住む地域への愛着を深めるために、そこに暮らす人たちから地域の歴史、自然、生活などを聞き取る、それが地元学です。聞き取りの成果は報告書として各地域で発行されています。

編さん室では、平成19年度刊行予定の『特別編9 地域史』に地元学の協力が欠かせない、と考えています。そこで地元学に携わる人たちに集まっていただき、座談会を開きました。この模様や、市内での地元学の現状など、地元学を特集する『市史せんだい』Vol.10は、8月刊行予定です。

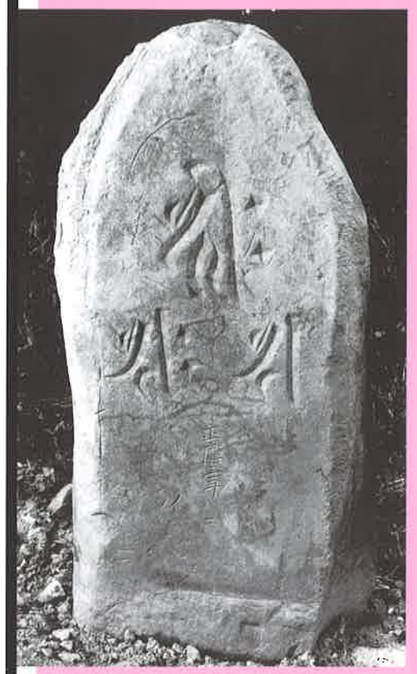
『市史せんだい』のお求めは、仙台市博物館2階売店でどうぞ。1冊900円（税込）です。　Vol.1、Vol.2、Vol.4は品切れです。

いろんな話題が飛び出した座談会

MONOGATARI SENDAI

モノがたり 仙台

板碑（いたび）


東光寺板碑群 64号碑（宮城野区）
中央に3つの梵字が彫られています

板碑とは鎌倉時代から室町時代にかけて造られた供養塔の一種です。石に大日如来や阿弥陀如来などを表す梵字などを刻み、建てた時期や理由、建てた人の名前などを記したものが一般的です。板碑は当時の人びとが残してくれた非常に貴重な資料なのです。

『特別編5 板碑』では、当初の予想をはるかに上まわる573基の板碑を取り上げることができました。このうち現地を訪れ所在を確認できた板碑は462基あります。調査にあたっては、松本源吉氏ら先達の記録によるところが大きいのは事実です。しかし、今回はじめて調査された板碑も少なくありません。仙台市内の板碑をすべて調査しようという目標は一応達成できたように思います。

今後新たな板碑が現れる可能性は十分にあります。実は6年にわたる調査の間にも、前に訪れたときに板碑がなかった場所に、次に行ってみると見知らぬ板碑がある、ということが何度かあったのです。また、屋敷の中にひっそりとたたずんでいて、その存在に気づくのが遅れたこともありました。調査もそろそろ大詰め、というころになって見つかった板碑が実は地元では有名な板碑だということを聞いて非常に慌てたこともありました。

この本をきっかけに、市民のみなさんに板碑について知っていただければ、「ここにも石があるよ」と教えられることがあるかもしれません。今回の調査が新たな発見につながるなら、それはたいへん有意義だといえるでしょう。そしてなにより、板碑が土中深くに埋もれ、忘れ去られるといった事態を防ぐのに役立つかもしれません。

これから先、板碑が発見された場合は、何らかの形で報告したいと考えています。ひょっとしたら、板碑はあなたの家の近くで眠っているのかも。

施設探訪　七十七銀行 金融資料館

仙台市史で使いたい写真や資料が博物館にないとき、必要なものはよそからお借りします。また、資料が見つかれば調査にでかけたりもします。このコーナーでは、市史編さん事業の過程で訪れた施設をご紹介します。

金融資料館は、平成10年に七十七銀行創業120周年を記念して開設されました。お金や銀行・金融に関する東北初の専門的な資料館で、数々の興味深い資料を紹介しています。

資料館の入口は金庫室の大扉になっていて、「お金の世界」「七十七銀行ことはじめ物語」「戦後の変遷」「金融情報ライブラリー」という4つのテーマ展示室があります。

ここには珍しい慶長大判金ほか実物の貨幣、貴重な文献資料、写真などが展示され、明治時代の銀行を再現した部屋や1億円の重さを体験できるコーナーもあります。

インターネット、バーチャルタウン、データビジョンなどの最新の電子メディアやクイズ形式の展示などが数多く取り入れられていて、大人から子どもまで楽しく見学できます。

金融資料館は、青葉通り東二番丁角の七十七銀行本店4階にあります。

七十七銀行 金融資料館
仙台市青葉区中央3-3-20
TEL 022-267-1111（代表）
TEL 022-211-9735（ダイヤルイン）
開館時間/平日9:00～15:00
休館/銀行休業日
入館無料

読者のひろば

「仙台市史」や「市史通信」へのご意見、ご感想をお寄せください。あて先は、
〒980-0862
仙台市青葉区川内三の丸跡
仙台市博物館市史編さん室　市史通信係まで
皆さまからの貴重な声、お待ちしております。

「『仙台市史』のポスターを見たことありますか？」

昨年12月に博物館で行われた市史セミナーで、こんな質問を来場者の方に投げかけてみました。その結果は……。

はい **48**人　いいえ **18**人　不明 **5**人

ではもう一問。「そのポスターはどこで見ましたか？」

仙台市博物館	33人	市・区役所	8人
書店	16人	地下鉄車内	6人
市民センター	12人	市バス車内	5人
図書館	9人	その他・不明	2人

ちなみに、地下鉄駅のホームや通路にある電照広告にも、市史の広告があります。どの駅のどこにあるかは、探してみてのお楽しみ。

次回配本

この夏刊行予定

第13回配本 通史編2 古代 中世

最新の研究成果をまじえ、古墳の出現から政宗の登場までの仙台の歩みを豊富なカラー図版とともに紹介します。

第14回配本 資料編4 近世3 村落

江戸時代の村の多彩な様子を伝える古文書150点を収録。付録として、江戸時代後期に作成された村絵図を復刻。

好評発売中

仙台の歴史を完全収録 各分野ごと続々登場

【通史編1】原始
【資料編5】近代現代1 交通建設
【資料編1】古代中世
【資料編2】近世1 藩政
【資料編3】近世2 城下町
【資料編10】伊達政宗文書1
【特別編1】自然
【特別編2】考古資料
【特別編3】美術工芸
【特別編4】市民生活
【特別編5】板碑
【特別編6】民俗

「通史編」3,000円（税込み価格）
「資料編」4,000円（税込み価格）
「特別編」は板碑のみ 5,000円（税込み価格）
ほか各 6,000円（税込み価格）

全体の計画（30冊）

◆通史編（9冊） 原始・古代中世・近世1～3・近代1～2・現代1～2
◆資料編（12冊） 古代中世・近世1～3・近代現代1～4・伊達政宗文書1～3・慶長遣欧使節
◆特別編（9冊） 自然・考古資料・美術工芸・市民生活・板碑・民俗・城館・文化芸能史・地域史

●発売元 宮城県教科書供給所
〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目9-22 TEL022-222-5052 FAX022-222-5056
県内主要書店で発売します。本の発送をご希望の方は、上記あてにお申し込みください。
なお、郵送の場合のお支払いは、配本に同封する振込用紙にてご入金ください。

●詳しくは、仙台市博物館市史編さん室までお問い合わせください。
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL022-225-0814 FAX022-216-1830

既刊 Pick up

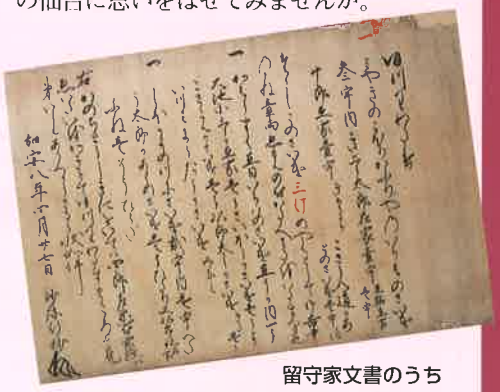
仙台といえば伊達政宗。でも、伊達家の歴史だけが仙台の歴史ではありません。政宗が仙台に移るはるか以前から、仙台にあたる地域で暮らしていた人々がいました。

昔のことを知るうえで、私たちを助けてくれるのが当時の資料です。なかでも文字資料はその効率のよさから、情報伝達の手段として、今も昔も重要な役割を果たしているといえるでしょう。

『資料編1 古代中世』には、仙台とその周辺に関する古代から政宗の仙台入城にかけての資料が収録されています。おもなものとして、『日本書紀』に代表される歴史書、仙台市内の遺跡から出土した木簡などの遺物に書かれた文字、中世の仙台地域で有力者だった留守、余目、朴沢家の文書などが取り上げられています。

また、140ページの写真図録が別冊付録としてついています。写真で実際の文書の雰囲気を味わうほかに、写真と本文を照らし合わせて、自分なりに解読を試みるのも楽しいかもしれません。

『資料編1 古代中世』で、はるか昔の仙台に思いをはせてみませんか。



留守家文書のうち
沙弥行妙〈留守家広〉の譲状
水沢市立図書館蔵
（留守家文書は国指定重要文化財）

LET's インターネット！

インターネットで『仙台市史』の最新情報を見ませんか。

仙台市博物館のホームページ内に、仙台市史のコーナーが開設されました。

現在、最新刊『通史編 原始』、『資料編 近代現代1』の内容紹介、既刊本のリストを見ることができます。

書店や博物館までわざわざ足を運ばなくても、『仙台市史』の内容が一目でわかります。

仙台市博物館ホームページのアドレスは、
http://www.city.sendai.jp/Section/Kyouiku/Museum/museum.html

編さん室より

あとがき

『市史通信』第3号をお届けします。

春到来ということで、今回は野外活動の話題を中心にしてみました。天気のよい休日には近所を散策してみるのはいかがでしょうか。案外身近なところに新しい発見があると思います。

せんだい 市史通信
第3号
発行年月日●平成12年3月31日
編集・発行●仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL 022-225-0814
FAX 022-216-1830